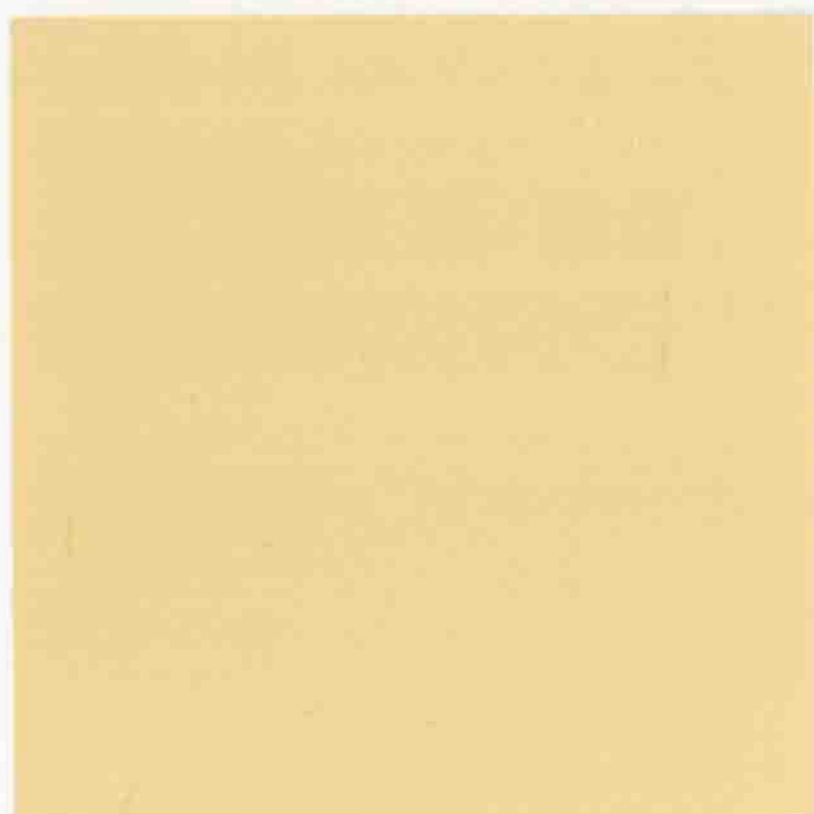


大震災後の社会学

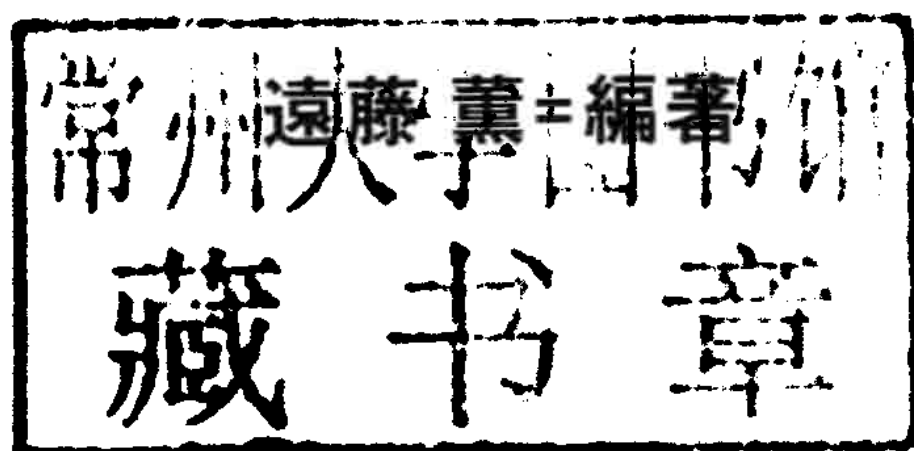
遠藤 薫=編著



講談社現代新書

2136

大震災後の社会学



講談社現代新書

2136

講談社現代新書 2136

大震災後の社会学

二〇一一年十二月二〇日第一刷発行

編者 遠藤 薫 えんどう かおる © Kaoru Endo 2011

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二-二 郵便番号 一〇二-八〇〇-一

電話 出版部 〇三-五三九五-三五二一

販売部 〇三-五三九五-五八一七

業務部 〇三-五三九五-三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。[R] (日本複写権センター委託出版物)

複写を希望される場合は、日本複写権センター (〇三-三四〇一-二三八二) にご連絡ください。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。



目次

序 章

われわれは東日本大震災から立ち直れるのか（遠藤 薫） 13

1 大震災と日本社会 14

2 終わらない災禍——辛さの構図 16

破壊された日常／不透明な未来／信じてきた日常の崩壊——消費社会と先進国
日本／通信難民、帰宅難民と高層難民——グローバル・シテイのただ中で／液

状化する郊外住宅地／メディアと風評——社会的コミュニケーション回路の変容と震災／混乱する日本政治／危機の高まるグローバル世界

3 われわれはいま、何を考えるべきか 35

六つのポイント／未曾有の大災害におけるミクロな「現実」の精査／マクロな社会システムの分析と再設計／非常時における社会的コミュニケーション回路の再構築／地域コミュニティにおける社会資本と情報蓄積／ボランティア活動の組織化とソーシャルメディア／国際社会との対話——世界問題としての大震災／本書の構成

第1章 大震災と社会変動のメカニズム (遠藤 薫) 45

1 東日本大震災は「未曾有」か 46

2 日本の歴史と大地震 48

揺れ続ける日本／元禄／宝永大地震——新井白石による反グローバリズム／安政の大地震——黒船グローバリズムと鯨の復興／関東大震災——後藤新平の設計的復興／鳥取地震／福井地震——太平洋戦争末期、直後の大地震

3 災禍と社会変動——三層モラルコンフリクトによるモデル化 61

災禍と社会の転機／三層（重層）モラルコンフリクト・モデルとは／日本の災害とモラルコンフリクト／東日本大震災と重層モラルコンフリクト・モデル

4 リスボン大地震と中世世界の転機 67

海洋帝国ポルトガルの衰退／近代主義の発展／社会変動のプロセス

5 東日本大震災の背後にあるグローバル世界の変動 76

複合性／越境性／重層モラルコンフリクトの漂流と「他者」の不在

第2章 グローバル世界のなかの東日本大震災——リスクと情報（遠藤 薫）

83

1 東日本大震災とグローバル世界 84

2 世界からのまなざしの二面性——支援と風評 85

グローバル世界からの人道的支援／世界に拡がる原発事故の恐怖／グローバル世界に向けた政治的デモンストレーション

3 福島原発事故とグローバル・リスク 94

なかなか報じられなかった原発事故／建屋崩壊／フクシマ劇場／フクシマと世界のエネルギー政策／原子力とリスク社会／日本における原子力リスク——東海村JCO臨界事故／なぜ日本から情報発信しないのか

4 東日本大震災を取り巻くグローバルな情勢——世界の不安 111

世界都市における災害／世界はリスクにみちている／アメリカの危機／「日本化？」する世界／グローバル世界と日本ムラ

第3章

東日本大震災にみる日本型システムの脆弱性

123

——復興を転機とするために（高原基彰）

- 1 震災で顕在化した日本型システムの問題 124

- 2 自民党型分配システム 129

- 3 反国家主義と国家への寄生の併存 136

- 4 日本型新自由主義と「空虚なボトムアップ」 142

- 5 合意形成のプラットフォームの不在 146

- 6 「国民統合」という理念の不在 152

第4章 地域経済復興における「セーフティネットと

157

『選択と集中』の輻輳」（西田亮介）

1 東日本大震災が地域経済復興に与えた影響と問題の所在 158

東日本大震災が地域経済に与えた被害／地域経済復興のビジョンと手法／具体像が見えない地域経済の復興と「輻輳する復興」

2 求められる地域経済の復興 169

雇用と人口流出の歯止め／緊急雇用創出事業からの移行

3 地域経済復興施策のミスマッチ——いち早く事業再開に向けて歩み始めた水産加工事業者 175

二〇一一年七月九日の石巻市沿岸部／破壊され尽くした水産加工団地／震災後の新事業の構想／なぜH社はOEM生産を構想できるのか

4 セーフティネットと「選択と集中」の輻輳 184

「選択と集中」を具体化する手法の不在／「選択と集中」の不在を解消する政治

的リーダーシップの必要性

第5章 災害ボランティア活動の「成熟」とは何か (新 雅史) 193

一六年前の熱狂と何が異なるのか／石巻と女川の復旧スピードの違いをどう考えるか／ボランティアが少ないのは本当だったのか／「ボランティア迷惑論」の流布／災害VCは不要なのか／NPO／NGOセクターの成長とボランティア／ボランティア連携とは何か／ボランティアによる支援が「成熟」することとは——効率やスピードに加えて……

第6章 日本の防災システムの陥穽 (関谷直也) 237

1 防災行政における「想定主義」と「ソフト対策重視主義」 238

ハザードマップという「想定主義」／「ハード対策」から「ソフト対策」へ

2 避難行動に関する「精神主義」 247

正しい避難手段——車避難は間違っているのか？／正しい「避難場所」——避難ビルに避難して大丈夫か／そもそも、なぜ避難できなかったのか？

3 防災対策における「平等主義」 261

帰宅困難者問題——「渋滞」および「火災」「群集流」の発生／防災におけるプライオリティとイニシアチブの欠如

4 大災後の社会心理と、災害教訓の風化 268

第7章 震災とメディア（遠藤・西田・関谷） 273

1 劇場型災害としての三・一一（遠藤） 274

2 三・一一はどのように報じられたか（遠藤） 275

テレビの初動のバラツキ／津波情報の遅れ／報道内容の変化／原発情報の混乱／報道の多元性／記録するメディアとしての新聞／全国紙と地方紙／ソーシャルメディアとの連携

3 東日本大震災後のソーシャルメディアと情報ボランティア（西田）

286

ソーシャルメディアへの注目／通信残存地域を中心とした安否確認手段／情報ボランティアの登場／原発事故に関連する専門知の共有／寄付のプラットフォーム／デマの拡散と対処／ソーシャルメディアと情報ボランティアの減災ツールとしての可能性

4 メディアと風評被害（関谷）

296

メディアの中の「福島第一原発事故」／風評被害と報道／風評被害の定義／三・一一後に問題になったことは、本当に風評被害なのか？

5 間メディア時代の災害情報（遠藤）

304

終章 日本の明日——自己快癒力 (resilience) をめざして (遠藤 薫) 307

1 大震災は「天罰」か 308

2 システムを考えるとという視点 310

買い占め批判の問題／陰謀論でも英雄待望論でもなく／社会システムを考える

3 東日本大震災に関する結果論ではない言説 316

4 明日はどっちだ？ 321

5 自己快癒力 (resilience) という人と 323

大震災後の社会学

遠藤 薫=編著

講談社現代新書

2136

目次

序 章 われわれは東日本大震災から立ち直れるのか（遠藤 薫） 13

1 大震災と日本社会 14

2 終わらない災禍——辛さの構図 16

破壊された日常／不透明な未来／信じてきた日常の崩壊——消費社会と先進国
日本／通信難民、帰宅難民と高層難民——グローバル・シティのただ中で／液

状化する郊外住宅地／メディアと風評——社会的コミュニケーション回路の変容と震災／混乱する日本政治／危機の高まるグローバル世界

3 われわれはいま、何を考えるべきか 35

六つのポイント／未曾有の大災害におけるミクロな「現実」の精査／マクロな社会システムの分析と再設計／非常時における社会的コミュニケーション回路の再構築／地域コミュニティにおける社会資本と情報蓄積／ボランティア活動の組織化とソーシャルメディア／国際社会との対話——世界問題としての大震災／本書の構成

第1章 大震災と社会変動のメカニズム (遠藤 薫) 45

1 東日本大震災は「未曾有」か 46

2 日本の歴史と大地震 48